

番号	日時	質問	回答	分類
1	2018年2月26日	<p>血圧の判定基準値ですが、収縮期129以下、拡張期84以下、とのことですが下の値の設定はないのでしょうか？</p>	<p>ご質問のカットオフ値は、通常求める基準範囲（平均±1.96標準偏差）＝健常者の測定値の分布幅、から算出されたものではなく、予防医学的閾値＝疫学調査研究から発症リスクが高いと予想され、「予防医学的な対応が要求される検査の閾値」のことで、設定値は特定された疾患に対してのみ意味を持つものであります。このため、特定健康診査の判定値と同じように上限値のみ設定し、下限値は設定していません。</p> <p>もし独自に設定する場合、低血圧は以下のように定義され、考慮に値する記述であります。</p> <p>A systolic blood pressure of less than 90 millimeters of mercury (mm Hg) or diastolic of less than 60 mm Hg is generally considered to be hypotension.  <a href="https://www.nhlbi.nih.gov/health-topics/hypotension">https://www.nhlbi.nih.gov/health-topics/hypotension</a></p> <p>どの値をもって要治療（D区分）にするかは、極めて難しい問題であります。通常、140mmHgの人が90未満になると、100mmHgの人が90未満になるのは臨床的意義が大きく異なります。また、収縮期血圧90mmHg未満に該当する者は、年齢、性により大きく異なります。</p> <p><a href="http://www.ningen-dock.jp/wp/wp-content/uploads/2013/09/170426-data_no1.pdf">http://www.ningen-dock.jp/wp/wp-content/uploads/2013/09/170426-data_no1.pdf</a></p> <p>の表7-2（男性：薬物非使用）では30歳代0.9%，表8-2（女性：薬物非使用）では30歳代6.1%，70歳代1.4%となり、加齢による改善ともとれる所見であったことを付け加えておきます。</p>	血圧

番号	日時	質問	回答	分類
2	2019年4月24日	<p>このたび高血圧学会様の高血圧治療ガイドラインが見直しとなりました。これに関連して2019年度判定区分表は見直しのご予定はございますでしょうか。もしご予定されているようであれば教えていただければ幸いです。</p>	<p>日本高血圧学会から2019年版ガイドラインが発表されましたが、変更点は高血圧と診断された者での降圧治療目標値です。高血圧の診断は、日を変えて別の機会に2回以上の値をもって高血圧と診断し、加えて、2次性か本態性かなどの精密検査を行う必要があります。1回の間ドックでは、高血圧という診断はできません。</p> <p>新しいガイドラインで示された高血圧の基準値は従来通り、診察室血圧が140/90mmHgとされ、変更はありません。</p>	血圧
3	2019年10月2日	<p>血圧に関する治療を受けている受診者の血圧検査の判定についてお尋ねします。</p> <p>この場合、血圧の数値が基準値以内の場合⇒E</p> <p>血圧の数値が基準値を超える場合⇒D2</p> <p>この判断は正しいでしょうか。</p>	<p>該当項目に対する治療が行われている場合は、値にかかわらずE判定（治療中）とします。</p>	血圧